

古事類苑

姓名部九

名中

幼名

〔書言字考節用集人倫〕四八小字

わらはな 童名 小字 乳名

〔類聚名物考姓氏八〕八小字

わらはな

童名 小字 乳名

これは幼少なる時の名也、今俗には若名といへり、唐人紀事の中にも、小名錄一卷有て、古今の人の幼名を出せり、又宋にも小字錄有、茲かれば小名小字は、かよはしても互に云なるべし。

〔類聚名物考人物十八〕十八童男名

およそ古への人に名付しさまは、おほくは魚鳥、または物によせていへる事多し、猶その外になにの事とも、今にして思ひわきがたきものもおほくあり、中比よりは、何丸などいふぞおほき、本土の書に、少名錄少字錄などいふ物もあり。

〔廣益俗說辨後編四〕四幼兒に賤名をつくる説

俗間に、幼兒のよくそだつまじなひとて、犬牛猪などの字をよぶことなり。

今按るに、日本にかぎらず、異邦にもこれあり、司馬相如、小名犬子、揚雄子、小名童鳥、其餘袁虎、桓豹、白象、狗兒見于小名錄、小仙鷦見于侍兒などのかたぐひなり。

〔梅城錄〕惟昔化兒菅氏家○中略

文集云、會春晨景淑、獨憑南軒遊目、俄有髡髮兒、弄花于庭、肌肉玉雪、襦綉芳藻、年幾五六歲、相公○菅